

流行ニュース：

<エボラ、ガボン（更新）>

12月18日現在、19例の感染疑診例（2例の確定例、13の死亡例を含む）が報告された。計193の接触例の追跡が行われている。WHOの国際チームと集団発生の警戒と対応のネットワーク(Global Outbreak Alert and Response Network)にCDC等からの出血性熱の専門スタッフが加わり活動を進めている。

今週の話題：

<76巻、2001年、1号-52号まで索引> (WER 参照)

<フィラリア撲滅、Zanzibar> 第一回薬剤集団投与

2001年10月27日と28日の両日、タンザニア共和国の一地域であるZanzibarでは、フィラリア撲滅プログラムのもと薬剤集団投与とキャンペーンが初めて行われた。Zanzibarは2つの主要な島、PembaとUngujaから成る地域で、人口は約90万人である。フィラリアが流行しており、成人人口の5%~30%がフィラリア症である。

Zanzibarにおける集団予防接種投与において、このプログラムは当初から全人口を対象とした。このプログラムでは全人口がイベルメクチン剤とアルベンダゾル剤の同時投与を受けることを想定しているが、5歳以下の幼児、妊娠女性、出産2週間後の授乳期の女性、そして重病患者への投与は適切でない。

寄生虫学的、臨床医学的現状を知るためのサーベイランスは地方部と都市部の2定点において行われた(表1)。このデータはこのプログラムの実施期間にキャンペーンがどれほど影響を及ぼしたかを知るためには不可欠なデータとなるだろう。

1: 成人人口におけるフィラリア症と兆候、2定点調査結果、Zanzibar, 2001

	診察を受けた人口			フィラリア症陽性			兆候		
	計	男性	女性	計	男性	女性	男性 リンパ性	ヒドロ性	女性 リンパ性
Kizimkazi (Unguja 南部)	500	270	230	89 (17.8%)	47 (17.4%)	42 (18.2%)	19 (7.0%)	21 (7.8%)	32 (13.9%)
Kwahani (Unguja, 都市部)	500	220	280	36 (7.2%)	19 (8.6%)	17 (6.1%)	7 (3.2%)	3 (1.4%)	4 (1.4%)

厚生省は薬剤投与の方法として戸別訪問という戦略をとった。地域への薬剤投与を効果的に達成するために、4,000名の薬剤配布員が選ばれ、トレーニングを受け、それぞれ50世帯への薬剤投与に従事した。薬剤配布員はフィラリア予防アシスタントと呼ばれるが、彼等はコミュニティに全面的に受け入れられるようプログラム期間中にその町や村で選ばれた人々である。多くは教師や保健従事者であった。

薬剤投与は2つの島を14の実施ユニットに分け、実施した。うち9ユニットは地理上の地域ユニットに従い、3ユニットは都市部での投与がより行いやすいようさらに複数のユニットに分け、残りの2ユニットは特別な集団(警官、兵士、囚人など)に的を絞った。

Zanzibarの集団薬剤投与キャンペーンで特徴的なのは、社会に強い動機付けを行ったことである。これはCommunication for Behavioural Impact (COMBI)として知られ、このような活動はWHOによる技術的な支援により実現した。薬剤配布の約3ヶ月前からCOMBIの活動が始められ、最終日まで継続して行われた。キャンペーンの目的は社会的政治的支援を確立し、プログラムに対する意識を高めること、そして人々に集団薬剤投与の日(フィラリアの日(F-day))としてプロモーションを行った)に薬剤を受けとってもらい、服用してもらうことである。動機付けキャンペーンのなかでも特に力を入れたのは薬剤服用により身体上に現れると期待される結果を知ってもらうこと、そしてあらゆるコミュニケーション手段を賢明に利用することであった。例えば次のような事項を挙げることができる:

- ・ 各家庭への2回の準備訪問を通して、薬剤配布員に人々の意識を高めてもらう。
- ・ メディアやポスターなどのコミュニケーション手段の集中的かつ大規模な利用。
- ・ 地域および国家レベルでの宗教および政治団体の指導者による積極的な介入

薬剤配布の一週間後に達成率¹を評価する調査が行われた。2つの島の39ヶ所地点がランダムに選ばれ各地区で600-900人の人々、計26,143人が質問を受けた。表2に示すように達成率は76%(Ungujaで79%、Pemba島で71%であり、対象人口のうちそれぞれ92.1%、85.6%の人々が薬剤を服用したことになる)であった。

またこの調査においては副作用についても質問を行ったが、服用した者のうち副作用を訴えたのは8%のみに止まった。しかしいずれも症状は腹痛や頭痛など軽く、薬剤によるフィラリア幼虫死滅によるものであると考えられる。

表2: Zanzibarにおける薬剤達成率、アンケート調査

	インタビュー を受けた人	インタビューを 受けた人のうち 薬剤配布の対象 であった人	インタビューを 受けた人のうち 薬剤を服用 した人	インタビューを 受けた人のうち 薬剤達成範囲 ¹
Unguja (24地点)	15 779	13523 (85.7%)	12 461	79.0%
Pemba (地点)	10 364	8 649 (83.5%)	7 402	71.4%
計	26 143	22 172 (84.8%)	19 863	75.9%

* 編集ノート: Zanzibar プログラムの今後の課題は、疾患の撲滅という目的に向け、さらに4-5年間集団薬剤投与キャンペーンで高い達成率を維持することである。本年 2001 年にそのスタートが切られたのである。

参照: ¹達成率は全人口のうち実際に薬剤を服用した人口を指す。

(岡村知子、宇佐美眞)